

令和5年12月26日（火）神石高原町立神石高原中学校

【夢あふれる学校図書館見学会の様子】



【参加者アンケートより】

- ・ 町立図書館と学校図書館の連携、蔵書データベースを共有することで各校に必要な資料が揃えやすくなる、学校司書の学校図書館づくり、分かりやすい書架サイン、統一された配架（小中通じての利用しやすさにつながる）、教職員との連携（年間を通じて）、子供たちとの取組、…と、学校司書から呼びかけることで、学校全体の読書に対する取り組み方が変わるということに驚き、学ぶことができました。選書（どんな本を入れているか）も見せていただき、参考になりました。
- ・ 【図書委員の活動】子供たちから発信があるのはとても素敵だと思いました。  
【七夕図書】とてもやってみたいです。自分の書いた短冊に一人一人メッセージを書いたりお勧めの本を紹介してくれたりするなんて、とても素敵な取組だと思いました。  
子供が本を紹介するコーナー、いいなと思いました。
- ・ 子供たちが学校図書館へ行きたくなるような工夫や、この本が読みたいと思えるような工夫がたくさんあり、それらを参考にしたいと思いました。特に、子供たちに読みたい本や学校図書館に入れてほしい本を聞いて、それを実現していくということは、本が好きな子、本に興味をもつ子を育てるためにとても大切だと感じました。
- ・ 子供たちが、本を手に取りたくなるような工夫を、学校司書の先生だけではなく、学校全体でされているのだと思いました。学校図書館で本を面出しして紹介するだけではなく、POPを付けたり、他の方の紹介文を添えたり、本に関する物（化石やシーサーなど）を

置いたりされていたので、子供たちも本に対する親しみをもてるのではないかと感じました。分類の仕方を工夫されていたり、色分けして本にシールを貼ったりされていて、細かい部分まで考えて配架されているのだと分かりました。

- ・【写真とメッセージの入ったPOP】芸人やスポーツ選手などの写真がまず目に入り、何だろうと思って、気付いたら読んでいました。こんな紹介の仕方、素敵だなと思い、自校でも取り入れてみたいです。

【七夕図書】「こんな本が読みたいです。」と七夕にちなんで短冊に書く取組が素敵だと思いました。今、子供は学校図書館にある本から選んで読書をしています。子供の思いに合った本を紹介すると、きっと心に残る1冊になるなと感じました。

- ・ 小中をつなぐ学校図書館の取組があることで、居心地のよさを感じる場になっていることを受け止めました。高校生の紹介ブック集もあり、すべての校種の関わりがあって素晴らしかったです。郷土資料（広島県、神石高原町）を集めてコーナーにしている学校図書館デザインには、迫力を感じました。
- ・【環境整備の充実】学校図書館の内装等、ハード面を含め、子供たちが「本を手に取りたい」「学校図書館に行ってみたい」と思わせる工夫を行うことが重要。  
【カリキュラム・マネジメントの充実】教科学習や特別活動と関連させた活動を行うことによって、「深まり」があった。3年間図書委員で活動した生徒が、「僕もついに本が好きになりました。高校でも図書委員をします。」と森元先生に話したそうです。こういう生徒を育てることが大切だと感じました。
- ・ 池田先生や森元先生の学校図書館づくりに対する努力を感じました。国語の単元で読んだ文学の作者への生徒の手紙や、それに対する作者からの返信を学校図書館内に掲示することも、とても素敵だと思います。
- ・ 読みたい本がたっぷりあるので、通いたくなりました。読み聞かせの放送や、個人に宛てたおすすめの本の紹介など、お金を払ったサービスでも扱うようなことを学校で実現できるのがいいなと思いました。子供たちが読みたい本と出会える場所として、ずっと良い環境を整えてくださっていることに感謝です。
- ・ 森元先生のおっしゃっていた「学校司書がいなくても本を探せる工夫」が実践されていると感じました。この本を探してみようと思い、探し始めるとすぐに見付けることができました。図書委員のおすすめの本コーナー、リクエストコーナー（きちんと司書からの回答がありました）、一息つけるコーナー（知恵の輪や間違い探しなど）、著名人の好きな本の紹介など、様々な工夫があり、この本が読みたい！という目的がなくても本に触れる時間を作れる空間となっていました。子供たちの興味を引き出す工夫が素晴らしいと思います。
- ・ 季節に応じた学校での掲示物、一人一人へメッセージを返してくださることなど、子供たちも興味をもつし、また次の本…と読み進めていきたくなると思う。

